

Department of Technology and Innovation Management
Department of Innovation Science

School of Environment and Society

Tokyo Institute of Technology

環境・社会理工学院
イノベーション科学系 イノベーション科学コース
技術経営専門職学位課程

特色と目指す人材像

イノベーション創出のリーダーとして科学・技術を活用し、自ら理論を構築して産業や社会の発展に貢献する実務家を養成します。科学・技術の分野における最先端の知識と理論に基づき、現代社会の諸問題に対して科学的に解決することができる人材を養成します。



技術経営専門職学位課程

ミッション・ビジョン

イノベーション創出のリーダーとして科学・技術を活用し、自ら理論を構築して産業や社会の発展に貢献する実務家を養成します。科学研究・技術開発に強みを有する本学の特長を活かし、社会人を中心とする様々な専門性を背景とする学生を受け入れ、社会に輩出します。

目指す人材

技術経営を実践する総合型リーダーとして、幅広い視野をもつ高い倫理観のもとに科学・技術を活用し、事実に基づいて自ら構築した論理に立脚して責任のある決断ができる、産業や社会の発展に貢献する実務家を養成します。

5つの特長

1 技術経営のリテラシー・スキルを修得する 体系的なカリキュラム

2 プロジェクトレポートによる 実践的演習

3 ゼミ(技術経営講究)による研究活動

技術経営に関する最先端の知識を体系的に学ぶことができます。新規事業の企画立案や、戦略策定、組織設計、知的財産・標準化マネジメントなどの技術経営のリテラシーの習得だけでなく、論理的思考力やコミュニケーション力といった汎用的な能力を磨きます。学内外の講師による講義を通じて、本学において実施されている先端技術開発の最前線や、企業経営や政策動向の最前線への理解を深めることができます。

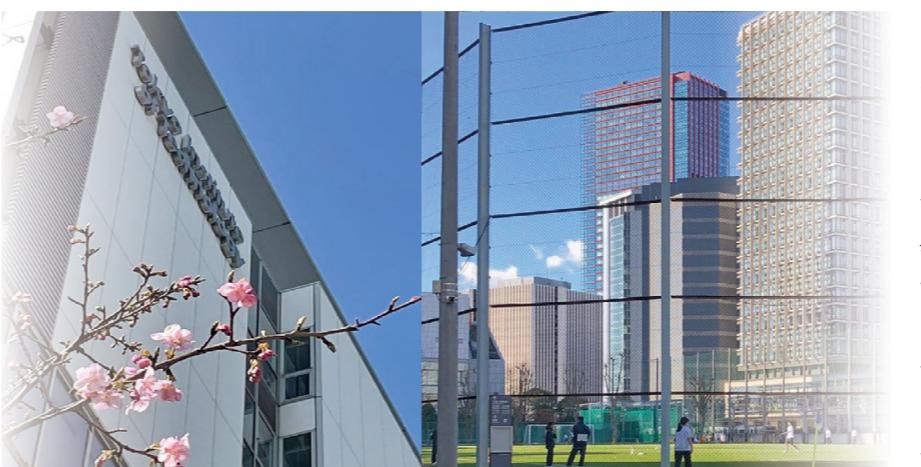
技術経営を実践する総合力を養うために、学術研究にとどまらない広義の研究活動を実施し、その結果をプロジェクトレポートとしてまとめる実践的演習を行っています。各学生が実務で培った知識や経験に加え、本課程で開講されている講義等を受講することで得られる学理や方法論などを用いて、指導教員のもと、調査・研究プロジェクトを実施します。

4 デュアルディグリープログラム (PhD×MOT)

本学の博士後期課程に在籍する学生を対象に提供する、博士と技術経営修士（専門職）を共に取得するプログラムです。科学・技術を深く探求すると同時に、技術経営に関する専門知識を習得することで、科学的発見や技術的発明をもとに、新たな社会的・経済的価値を産み出すイノベーション創出のリーダーを養成することを目的としています。口述試験による選考で、追加の授業料負担はありません。

5 柔軟なカリキュラムの 設計と選択

学生一人ひとりが自分の関心や背景知識、学習目的に応じ、教員による履修指導のもと、アラカルト形式で履修メニューを設計することができます。例えば、サービス・情報、バイオ・医療、エネルギーなどの特定の領域を選択し集中的に学習することができます。



イノベーション科学系 イノベーション科学コース(博士後期課程)

ミッション・ビジョン

イノベーション創出のための実践的かつ卓越した知を創出し、イノベーションの実現に貢献することで、産業や社会の発展を主導することができる知的プロフェッショナル人材を養成します。イノベーションサイエンスの学理の構築・体系化を目的とし、他領域の専門家や海外のトップスクールとも連携しながら、研究・教育・社会連携を実施しています。

目指す人材

イノベーション創出のために、必要な科学技術の収集を総動員し、新たな理論や知見を産み出すとともに、社会課題の解決や豊かな未来社会の創成に貢献することができる人材を養成します。

5つの特長

1 イノベーション サイエンスの 国際的な研究教育拠点

将来のイノベーションの創成のためには、過去の事例の分析のみならず、グローバルな視点に立って、イノベーションに関する知的フロンティアを開拓していく必要があります。本コースでは、イノベーションサイエンスの国際的な研究教育拠点として、国内外の様々な機関や研究者と協力しながら、研究教育を実施しています。

2 世界トップクラスの 研究者による 研究指導

本コースには、科学技術イノベーションやイノベーションシステムに関する卓越した研究者が多く在籍しています。世界トップクラスの研究者による研究指導を受けることで、世界のトップスクールや国際機関で世界に伍して戦い、活躍できる一流の研究者を育成します。

3 システマティック レビューを通じた 知的俯瞰力の獲得

イノベーションのために必要となる知識は多様かつダイナミックに変化しています。本コースでは、システムティックレビューを実施することで、必要に応じて、自然科学や工学、人文・社会科学などの多様な研究領域の最先端の学術的知識を俯瞰的に学ぶことができます。

4 実践的研究を通じた イノベーション実践力の 養成

イノベーションは行動を伴います。産業界や政府、国際機関等の学外の様々なステークホルダーと協調し、イノベーション創成のための実践的な研究を行うことで、イノベーションを担う知的プロフェッショナル人財を継続的に社会に輩出していくことを期待しています。

5 国際会議発表等による 国際的なプレゼンスの 向上

教員が実施している様々なプロジェクトに参画する等の方法により、実施した研究の成果を国際会議等で発表することができます。これにより、学生一人一人が国際的なプレゼンスを向上させること、それに向けた一歩を踏み出すことを期待しています。

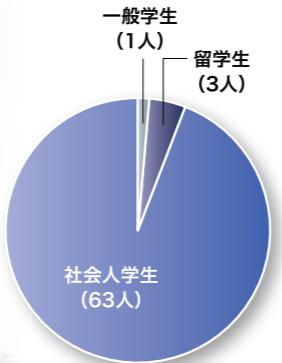
多様な学生に配慮した学修環境

一般学生、社会人学生および留学生の多様な就学ニーズを踏まえ、東京工業大学の秀れた立地と教育研究インフラをもとに、国内トップレベルの学修環境を提供します。

学生の多様なバックグラウンド

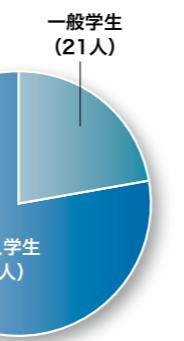
一般学生、社会人学生及び留学生が共に学習することにより、多様な価値観や考え方を学ぶことができます。

技術経営専門職学位課程 在校生 構成比率



イノベーション科学系 イノベーション科学コース (博士後期課程) 在校生 構成比率

(2021年2月現在)



社会人学生に配慮した時間

社会人学生の学修環境に配慮し、講義は平日の夕方以降と土曜日に集中的に開講しています。

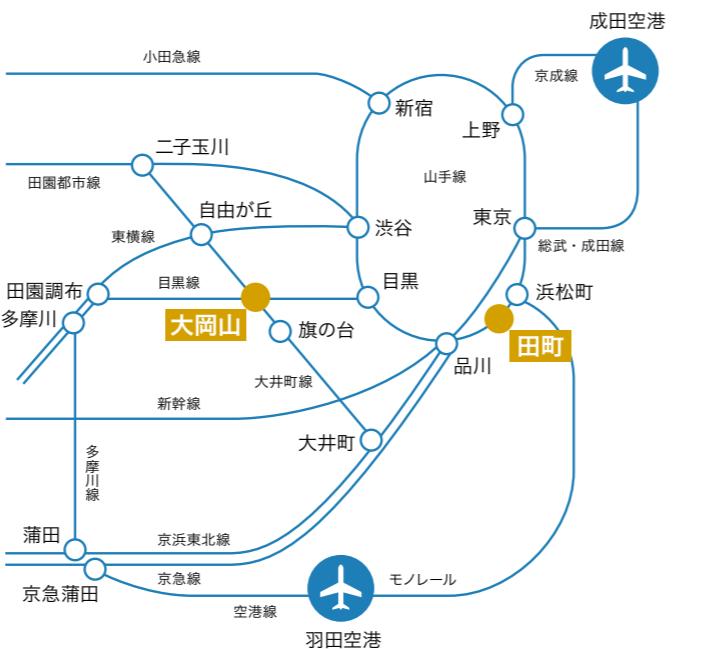
田町キャンパス 時間割タイムテーブル

時限	時間帯	月	火	水	木	金	土
1-2時限	8:50 - 10:30					●	
3-4時限	10:40 - 12:20					●	
5-6時限	13:10 - 14:50					●	
7-8時限	15:00 - 16:40					●	
9-10時限	16:50 - 18:30			●		●	
11-12時限	18:40 - 20:20	●	●	●	●	●	●

Ookayama
大岡山キャンパス

良好なアクセス

講義やゼミが行われる田町キャンパス・大岡山キャンパスとともに、平日の終業後の通学に便利な場所にあります。



大岡山キャンパス 東急大井町線・目黒線（大岡山駅下車 徒歩1分）
田町キャンパス JR山手線・京浜東北線（田町駅下車 徒歩2分）

東工大の学修インフラ

本学の図書館や文献データベース等を無料で利用することができます。フルタイム学生には専用のデスクが提供されます。



Tamachi
田町キャンパス

豊富で柔軟なカリキュラム

専門知識や技術を学ぶために、関連する科目を科目群としてまとめて、年次や習熟度に併せて体系的に学べるように構成しています。

コンセプト

技術・経営の知を創造・活用し実践する実務家やイノベーターを養成することを目的に、以下の科目群を設けています。

A. 技術経営基礎科目群：

分析、思考とコミュニケーションの方法論

B. 技術経営専門科目群：

技術経営に関する専門知識

C. 経済・社会システム科目群：

経済・社会に関する広範な理解

D. 技術経営実践科目群：

技術経営・イノベーション人材としてのキャリアを自ら開拓

E. 講究・インターンシップ科目群：

広義の研究を通じたイノベーション実践力の涵養

履修科目的認定制度：本学に入学する前に大学院において修得した授業科目的単位を、審査のもとで、本課程の修了必要単位に含めることができます。

技術経営専門職学位課程の修了要件と年限

40 単位以上を学修要件に従って取得すること。プロジェクトレポートの審査及び最終試験に合格すること。標準的な修業年限は 2 年ですが、上記の要件を満たす場合、特例適用により最短 1 年での修了も可能です。

イノベーション科学コース(博士後期課程)の修了要件と年限

24 単位以上を学修要件に従って取得すること。中間審査、予備審査及び博士論文審査を経て、最終審査に合格すること。その他、学修要件が定める諸要件（外国语の能力、論文・学会発表の実績等）を満足すること。標準的な修業年限は 3 年ですが、学修状況等に応じて、一定の短縮あるいは延長を行えます。

開講科目

科目群	400番台(修士1年目)	500番台(修士2年目)	600番台(博士後期)
A 技術経営基礎科目群	経営・財務分析基礎 [2] 政治・経済分析基礎 [2] 数理情報分析基礎 [2] イノベーションのための知識工学 [2] ユーザリサーチ概論 [1] 社会科学のモデル・実験入門 [1] コミュニケーションデザイン論 [2]	社会シミュレーション [2] コーポレートファイナンス [2] ユーザ調査法 [1] 証券投資論 [2] 数理情報分析応用 [2] 社会科学政策と社会的課題 [2]	システムティックレビュー(通年) [4] イノベーション分析演習 [2]
B 技術経営専門科目群	R&D戦略 [2] 経営戦略論 [2] 経営組織論 [2]	プロダクト・サービスデザイン [2] 知的財産マネジメント [2] リスク・クライスマネジメント [2] 標準化戦略 [2] デジタルマーケティング [1] 情報と知識のマネジメント [2] サービス・ビジネスのイノベーション特論 [2]	技術経営分析・設計演習 [2]
C 経済・社会システム科目群	ビジネスエコシステム論 [2] イノベーション政策概論 [2]	科学技術政策分析 [2] エネルギー技術と経済・社会システム [2] バイオ医療技術と経済・社会システム [2] 社会インフラと経済・社会システム [2] 情報・サービスと経済・社会システム [2] 政策プロセス科学特論 [2]	経済・社会システム分析・設計演習 [2]
D 技術経営実践科目群	リサーチリテラシー演習 [1]	先端技術とイノベーション [4] アントレプレナーシップと事業創成 [2] イノベーション実践セミナー [2] 経営者論セミナー [2]	研究開発・事業企画立案演習 [2]
E 講究・インターンシップ科目群	技術経営講究(通年) [4] 技術経営インターンシップ [2]	技術経営講究(通年) [4] 技術経営インターンシップ [6]	イノベーション科学講究(通年) [12] イノベーション研究概論 [1] イノベーションコロキウム [1] MOT研究の最前線(通年) [2]

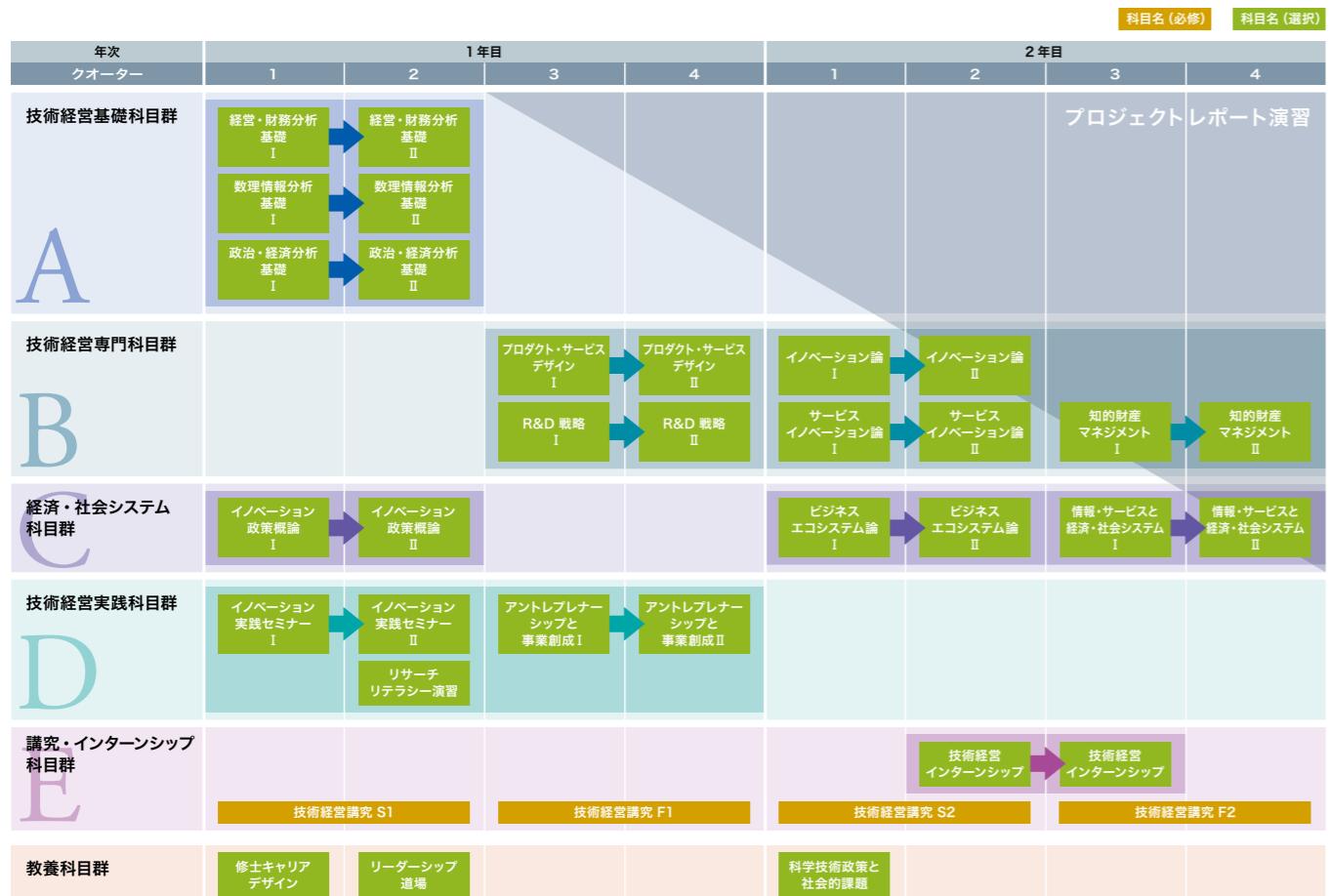
※赤字は英語開講科目です。※1 単位の科目は、1 クオーターの開講（週1回・全7回）となります。

※2 単位の科目は、一部を除き、2 クオーター連続での開講（週1回・全14回）となります。

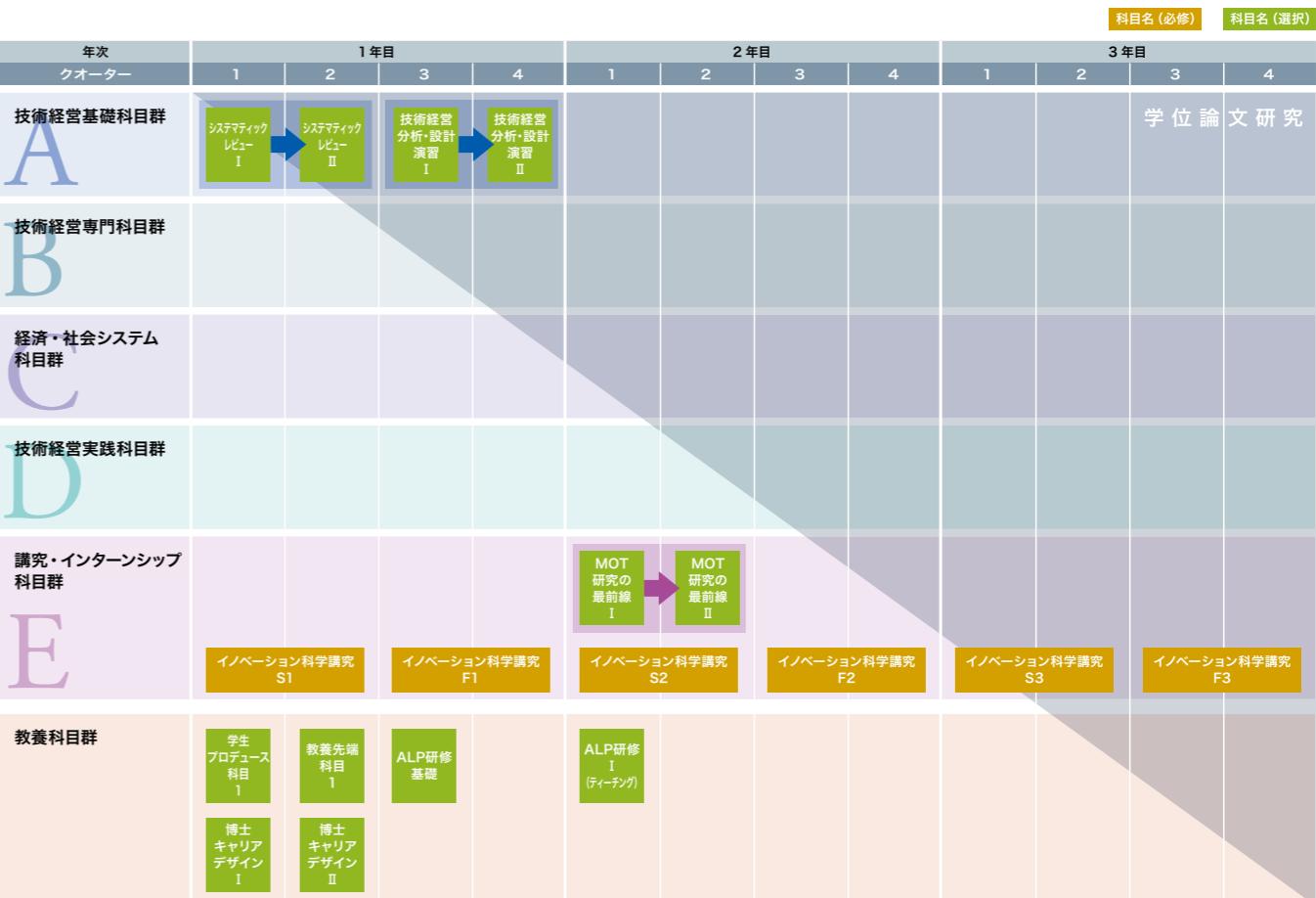
※通年の科目は、クオーター毎に履修選択を行います。※講究科目（ゼミ）は必修です。

※詳細は、学修案内等を参照してください。

カリキュラム例(技術経営専門職学位課程)



カリキュラム例(イノベーション科学コース)



池上研究室

Ikegami Laboratory

池上 雅子 教授

専門分野 技術と安全保障、核セキュリティ・核不拡散、先端技術研究開発政策と技術移転
学 位 Ph.D. Uppsala University, Sweden & 博士（社会学）東京大学
経 歴 ストックホルム大学アジア太平洋研究所(CPAS)所長・教授、ウppsala大学経営工学研究科、東北大国際会計政策大学院客員教授



科学技術を通して安全保障を追究し平和と人類的課題を極める

核兵器や原子力に象徴されるように、現代の高度科学技術は、人類の存亡を左右する程重大な影響力をもたらします。技術は、無限の可能性を持つ一方、制御不能または誤用されれば、核兵器のように人類を滅ぼす事もできます。その絶大な潜在性故、科学技術は厳密には価値自由たりえず、科学技術をめぐる意思決定・政策は、必然的にその道義性・倫理性が問われます。M.L. キング牧師の "Our scientific power has outrun our spiritual power. We have guided missiles and misguided men" は正鵠を射た卓見です。本研究室では科学技術とイノベーションをめぐる意思決定・政策分析を縦軸に、当該科学技術を取り巻く政治経済社会安全保障上の動態分析を横軸に、定性的・定量的方法論を組み合わせた包括的アプローチで科学技術の人類的課題を究明します。本研究室は「科学技術を人類の福利に役立て、叡智を以て紛争予防と平和を実現する」という高い理念の元、安全保障や核セキュリティ、軍事技術研究開発、技術移転といったハードな問題に現実的に取り組みます。当研究室は時代を俯瞰する学際性、革新性、専門的コチを特徴とし、スウェーデンはじめ海外の大学研究機関との学術交流を通して国際性を強化します。

代表著書

M. Ikegami, "Missile arms-racing and insecurity in the Asia-Pacific", London: International Institute for Strategic Studies (IISS), 31 August 2021.
Ikegami, M. 'Prevent Nuclear Catastrophe: Finally end the Korean War', Bulletin of the Atomic Scientists, 15 June 2017; 'Seeking a Path toward Missile Nonproliferation: A Japanese Response', Bulletin of the Atomic Scientists, 72:6, pp. 365-367, 2016
Ikegami, M. Military Technology and US-Japan Security Relations: A Study of Three Cases of Military R&D Collaboration, 1983-1998, Uppsala University, 1998
Ikegami, M. 'Japan', in R. Pal Singh (ed.) Arms Procurement Decision Making, Vol. 1, Oxford University Press, 1998, pp. 131-176.
Ikegami, M. 'Japan: Latent but large supplier of dual-use technology', in H. Wulf (ed.) Arms Industry Limited, Oxford Univ. Press, 1993 pp. 131-176.
Ikegami M. The Military-Industrial Complex: The Cases of Sweden and Japan, Dartmouth: Aldershot/Brookfield USA/ Singapore/Sydney, 1992

社会貢献

日本核物質管理学会 理事・企画委員長
東京工業大学 原子核工学コース 副担当
東京工業大学 原子力規制人材育成プログラム「ANSET: Advanced Nuclear 3S Education and Training」運営委員
Japan Pugwash of the Pugwash Conferences on Science & World Affairs 運営委員
岩波書店『世界』、共同通信、朝日新聞、毎日新聞、日経新聞等への投稿論説多数

池田研究室

Ikeda Laboratory

池田 伸太郎 准教授

専門分野 技術経営学、研究開発（R&D）戦略、オープンイノベーション、アントレプレナーシップ
学 位 博士（工学）、東京大学
経 歴 東京大学生産技術研究所、東京理科大学、Universal Elements LLC.



イノベーションに資するワークプレイスの在り方と先端技術の研究開発戦略を考える

当研究室では革新的な技術の成り立ちに着目し、R&Dなど企業活動の効率性やベンチャーキャピタル(VC, CVC)の在り方、アントレプレナーの役割などを調査・分析します。また、企業活動の基盤となるワークプレイス、例えばオフィス環境や都市環境もイノベーションに大きな影響を与えていていると考えています。広義の"働く環境"がイノベーションの創出や企業活動の効率性とどのように関連するのか?その問い合わせに対し、インキュベーション施設や複合用途都市開発、ウェルネス経営等を切り口として解明に取り組みます。なお、研究の対象は学生の多様なバックグラウンドや研究志向に応じて相談しながら設定します。また、次世代のイノベーション人材には、既存の事業や組織、社会・経済システムの枠組みを超えて、多様な視点で物事を捉え、柔軟かつ革新的な思考力ならびに発信力を身につけることを期待しています。当研究室では1)主体的な情報収集活動、2)得られた情報の潜在的な特徴を分析する力、3)成果を論理的かつ魅力的に伝える力の3点を重視し、自由闊達な議論が行われる研究環境を構築しイノベーション人材を育成します。

代表著書

S. Ikeda, T. Nagai, A novel optimization method combining metaheuristics and machine learning for daily optimal operations in building energy and storage systems, Applied Energy, in Press, 2021.
池田伸太郎, AI, IoT の積極導入による省エネ・受給最適化, 月刊省エネルギー誌 2021年1月号
S. Ikeda, R. Oooka, A new optimization strategy for the operating schedule of energy systems under uncertainty of renewable energy sources and demand changes, Energy and Buildings, 125, pp.75-85, 2016.
S. Ikeda, R. Oooka, Metaheuristic optimization methods for a comprehensive operating schedule of battery, thermal energy storage, and heat source in a building energy system, Applied Energy, 151, pp.192-205, 2015.
S. Ikeda, W. Choi, R. Oooka, Optimization method for multiple heat source operation including ground source heat pump considering dynamic variation in ground temperature, Applied Energy, 193, pp.466-478, 2017.

社会貢献

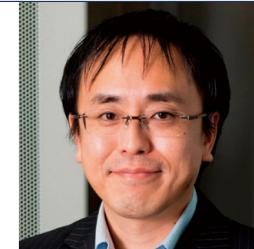
国土交通省 官庁施設におけるAI等を活用した設備設計の品質確保に関する検討会 委員
国際エネルギー機関(IEA) ECES Annex 37 Member
空気調和・衛生工学会建物の管理・運用におけるAI活用小委員会 幹事
日本建築学会伝熱小委員会熱環境情報WG メンバー
東京都立大学 非常勤講師

因幡研究室

Inaba Laboratory

因幡 和晃 准教授

専門分野 エンジニアリングデザイン、機械工学、マルチフィジックス
学 位 博士（工学）、慶應義塾大学
経 歴 カリフォルニア工科大学、東京理科大学、日本学術振興会特別研究員（DC1）



エンジニアリングデザインによる新しい機械・構造物の創出

産学連携プロジェクトや共創スペースにおいて、デザイン思考やエンジニアリングデザインを活用してユーザーと共に多くの人が気づいていない（潜在的）課題を抽出し、機械工学、特に構造力学や混相流などの応用力学で課題解決のための要素技術の開発や製品設計を行うことで、ユーザーに革新的な体験を提供するための研究を行っています。自動車などのモビリティに関する要素技術開発、サイバーフィジカルスペース（CPS）の実現に向けたマルチフィジックス・シミュレーション、産学連携プロジェクトの実践やその分析などを研究対象としています。また、東工大デザイン工房と呼ばれる共創スペースの運用・管理を通じて、ユーザーのニーズ抽出（CoLab）、3Dプリンタやレーザー加工機等によるプロトタイプ製作（FabLab）、経営者等とのビジネスモデル検討（BizLab）、デライト性評価によるユーザー体験の可視化（ExpLab）といった4つのLab活動におけるエンジニアリングデザイン手法の開発・実践や、新たなことのづくりの提案・評価を行っています。

代表著書

Ji, M., Inaba, K., Efficient theoretical and numerical methods for solving free vibrations and transient responses of a circular plate coupled with fluid subjected to impact loadings, J. Press. Vessel Technol., 2021.
Kojima, T., Inaba, K., Numerical analysis of wave propagation across solid-fluid interface with fluid-structure interaction in circular tube, Inter. J. Press. Vessels Piping, Elsevier, 183, 2020.
Ushifusa, H., Inaba, K., Takahashi, K., Kishimoto, K., Supercritical CO₂ generator using bubble collapse by water hammer, J. Supercritical Fluids, 94, 174-181, 2014.
You, J. H., Inaba, K., Fluid-structure interaction in water-filled thin pipes of anisotropic composite materials, J. Fluids Structures, 36, 162-173, 2012.
Inaba, K., Shepherd, J. E., Flexural waves in fluid-filled tubes subject to axial impact, J. Press. Vessel Technol., 132, 021302, 2010.
Shepherd, J. E., Inaba, K., Shock loading and failure of fluid-filled tubular structures, Dynamic failure of materials and structures, Springer, 2009.

社会貢献

ASME PVP FSI Tech Committee, Chair (2021-) 文部科学省 大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業 幹事校委員

梶川研究室

Kajikawa Laboratory

梶川 裕矢 教授

専門分野 イノベーション科学、サステナビリティ学、イノベーションマネジメント、科学技術イノベーション政策
学 位 博士（工学）、東京大学
経 歴 東京大学大学院工学系研究科



イノベーションを通じて持続可能な社会を構築する

研究開発マネジメントや新規事業企画、経済的・社会的価値創出のための事業・施策設計など、イノベーションに関する新たな理論の開拓ならびに方法論の開発を、実務と連携しながら実学として取り組んでいます。本研究室では、学生や研究員自身の多様なバックグラウンドや専門性に、学問としてのイノベーション科学の叡知を加味し、楽しく、真剣に研究活動を行っています。対象分野は多様かつ領域横断的で、エネルギー・デバイス、情報、健康医療、スポーツ・アート、持続可能性など、様々な領域におけるイノベーションを探求しています。各領域や技術に対する理解をもとに、イノベーション科学に関する最先端の専門知を取り入れ、自らが論理・論述、物語を構築し、イノベーション創出に向けた行動に繋げるための研究教育活動を行っています。また、技術経営及び科学技術イノベーション政策のリーディング研究室として、国内外の学術雑誌の編集や国際ワークショップ・セミナーの開催、一流学術雑誌への論文投稿などを通じ、国内外のイノベーション研究の拠点を構築するための取り組みに努めています。

代表著書

Kajikawa, Y. et al. Sustainability Science: The changing landscape of sustainability research. Sustain. Sci. 9, 431-8, 2014.
Ittipanuvat, V. et al. Finding linkage between technology and social issue: a literature based discovery approach. J. Eng. Tech. Mgt. 32, 160-84, 2014.
Mori, J. et al. Machine learning approach for finding business partners and building reciprocal relationships. Expert Systems with Applications 32, 10402-7, 2012.
Kajikawa, Y. et al. Multiscale analysis of interfirm networks in regional clusters. Technovation 30, 168-80, 2010.
Kajikawa, Y. Research core and framework of sustainability science, Sustain. Sci. 3, 215-39, 2008.

社会貢献

名古屋大学 イノベーション戦略室 客員教授
JST 革新的イノベーション創出プログラム 構造化チーム 委員
Technological Forecasting and Social Change, Associate Editor
Frontiers in Research Metrics and Analytics, Associate Editor
Sustainability Science, Editor

後藤研究室

Goto Laboratory

後藤 美香 教授

専門分野 企業経済学、エネルギー経済学、
技術進歩とイノベーション
学 位 博士（経済学）、名古屋大学
経 歴 電力中央研究所、
東京工業大学大学院社会理工学研究科



エネルギーと環境から持続可能な社会を考える

企業経営について、技術進歩の促進や多面的な経営効率性の改善をテーマに研究しています。企業や、企業を取り巻く経済・社会に関するデータを、計量経済学やマネジメント・サイエンスの手法を応用して分析する実証研究を行っています。近年、私たちを取り巻く社会は大きな変化に直面しています。エネルギー問題や環境問題がそうであるように、さまざまな課題は複雑に絡み合っているため、1つの企業や産業、さらには1国のみでも解決が難しいグローバルな問題が増えています。持続的に発展可能な社会の一員として、企業が目指す経営とはどのようなものか、企業と社会とのかかわりを、技術やマネジメントなど、多面的に分析し考察していきます。当研究室では、大学での文系出身・理系出身を問わず、さまざまな情報を活用した企業経営の定量的分析や、エネルギー・環境に関する政策研究に関心のある人を歓迎します。多くの情報が多様な媒体を通じて得られる現代社会において、自分なりに仮説を立て検証する能力はますます重要になっています。ものごとを深く観察するとともに、全体を俯瞰し、課題について考察した結果を国際的な視野に立って積極的に社会に発信することのできる人材を目指します。

代表著書

Sueyoshi, T., Goto, M. Environmental Assessment on Energy and Sustainability by Data Envelopment Analysis. John Wiley & Sons. London, UK, 2018.
Goto, M., Sueyoshi, T. Sustainable development and corporate social responsibility in Japanese manufacturing companies. Sustainable Development 28(4), 844-856, 2020.
Mohammed Atris, A., Goto, M. Vertical structure and efficiency assessment of the US oil and gas companies. Resources Policy 63, 101437.
Goto, M., Mohammed Atris, A., Otsuka, A. Productivity change and decomposition analysis of Japanese regional economies. Regional Studies 52(11), 1537-1547, 2018.
Goto, M., Otsuka, A., Sueyoshi, T. DEA (Data Envelopment Analysis) assessment of operational and environmental efficiencies on Japanese regional industries. Energy 66, 535-49, 2014.

社会貢献

公益事業学会 理事
Economics of Energy & Environmental Policy, International Association for Energy Economics, Editorial Board Member
内閣府 消費者委員会 専門委員

西條研究室

Saijo Laboratory

西條 美紀 教授

専門分野 コミュニケーションデザイン、
イノベーションの普及、知識管理、談話管理
学 位 博士（人文科学）、お茶の水女子大学
経 歴 早稲田大学、
東京工業大学留学生センター 助教授



コミュニケーションデザインによるイノベーションの創出

道具はどのように人々の相互作用の中で再発明されるのか、どのようなリテラシーの人にどのようなコミュニケーションがリスク管理の観点から有効なのか、“多様な人々の間の対話は決裂しやすく、似た者同士の対話は発見がない”という命題を克服するためにどんなデザインが考えられるか、といった内容を、現実のフィールドでの事象に関与し、分析し、その結果を現場に戻す Action Research により研究を進めています。これまで、質問紙調査と多変量解析による科学技術リテラシーのモデル化、地域における住宅用太陽光発電の普及・維持、自治体・地域住民・企業との協働による課題解決、高齢者向け電動アシスト自転車の社会技術開発等、多くの社会的課題に取り組んできました。ユーザーイノベーションを人々の相互作用の観点から分析したい人、相互に共通点があまりない人々のコミュニケーションのなりたちに興味がある人、職場のコミュニケーションの問題を俯瞰的に考えてデザインという観点から整理したい人におすすめです。

代表著書

三島聰 編、三島聰、守屋克彦、本庄武、高木光太郎、森本郁代、西條美紀、大塚裕子、野原佳代子、大貝葵、石塚章夫. 裁判員裁判の評議デザイン 市民の知が生きる裁判をめざして、裁判員裁判の評議デザイン－市民の知が生きる裁判をめざして、日本評論社, Sep. 2015.
Saijo, M., et al. Elucidating and Creating Working Knowledge for the Care of the Frail Elderly Through User-Centered Technology Evaluation of a 4-Wheel Electric Power Assisted Bicycle: A Case Study of a Salutogenic Device in Healthcare Facilities in Japan. Knowledge Discovery, Knowledge Engineering and Knowledge Management Volume 553 of the series Communications in Computer and Information Science pp 605-620, Springer International Publishing Switzerland, 2015.
Saijo, M., et al. Elucidating Multi-disciplinary and Inter-agency Collaboration Process for Coordinated Elderly Care: A Case Study of a Japanese Care Access Center. Knowledge Discovery, Knowledge Engineering and Knowledge Management Volume 454 of the series Communications in Computer and Information Science pp 357-369, Springer-Verlag Berlin Heidelberg, 2015.
西條美紀,『コミュニケーションデザイン』, くろしお出版, 2014.
西條美紀. 社会言語学, 藤永保 監修『最新 心理学事典』, 平凡社, 東京, 2013.

社会貢献

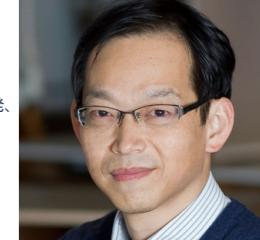
日本学術会議 総合工学委員会 連携会員
高温ガス炉及び水素製造研究開発・評価委員会 委員

齊藤研究室

Saito Laboratory

齊藤 滋規 教授

専門分野 デザイン思考を活用した製品・サービス開発、
エンジニアリングデザイン、
ユーザー中心設計
学 位 博士（工学）、東京大学
経 歴 東京大学大学院工学系研究科



価値を創造する製品・サービス開発を通じて世の中を生き活きとデザインする

代表著書

齊藤滋規, 田岡祐樹, “エンジニアリングデザインと未来洞察”, 一橋大学イノベーション研究センター, Vol. 67, No. 2, pp. 64-75, 2019.
東京工業大学エンジニアリングデザインプロジェクト, 齊藤滋規他, 『エンジニアのためのデザイン思考入門』, 翔泳社, 2017年.
齊藤滋規, “異分野協創エンジニアリングデザインプロジェクトにおける教育効果と実施課題”, 工学教育, 日本工学協会, Vol.65, No.4, pp. 57-62, 2017.
齊藤滋規, “理工系大学の授業革新”, IDE - 現代の高等教育, IDE 大学協会, No. 582, pp. 31-35, 2016.

社会貢献

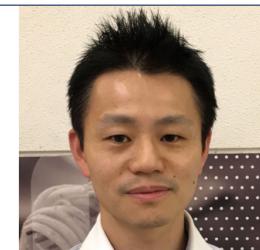
日経優秀製品・サービス賞 内部審査員
パナソニック Wonder 賞 審査員
イノベーション教育学会第4回年次大会 実行委員長
JST-SICORP 国際共同研究拠点事業 (ASEAN、インド) アドバイザー

笹原研究室

Sasahara Laboratory

笹原 和俊 准教授

専門分野 計算社会科学、ソーシャルメディア、
データサイエンス、複雑系科学
学 位 博士（学術）、東京大学
経 歴 名古屋大学、理化学研究所 BSI、東京大学



計算社会科学による価値創造と社会イノベーション

ICTやIoTの進化による社会のデジタル化やウェブのソーシャル化等によって、人々の行動の詳細がデジタルに記録・蓄積されるようになります。当研究室では、このような人間行動に関する大規模なデータ（ビッグデータ）を「計算社会科学」の方法論で分析・モデル化し、得られた知見と洞察を価値の創造や社会イノベーションに実践する研究をしています。計算社会科学とは、ビッグデータやコンピュータの活用が可能にするデジタル時代の社会科学です。(1) 人間が生み出すビッグデータの分析、(2) デジタルツールを活用した実験・調査、(3) 社会現象のモデリング、これら3つの方法を駆使して、個人や集団、そして社会をこれまでにない解像度とスケールで定量的に研究する学際領域です。当研究室では、特に、ソーシャル・ネットワークにおける情報の多様性・信頼性を動的に維持する原理と技術を探究しています。ヒト、モノ、コト（情報）がオンライン（情報環境）とオフライン（実世界）の垣根なく相互接続する Society 5.0において、このような原理と技術は、価値創造の源泉としてのソーシャル・キャピタルの新たな可能性を切り拓き、様々な社会イノベーションへの応用が期待されます。

代表著書

K. Sasahara et al., Social Influence and Unfollowing Accelerate the Emergence of Echo Chambers, Journal of Computational Social Science, 2020
K. Sasahara, You are what you eat: A social media study of food identity, Journal of Computational Social Science 2(2), pp.103-117, 2019
笹原和俊『フェイクニュースを科学する：拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』化学同人, 2018
K. Sasahara, Visualizing Collective Attention Using Association Networks, New Generation Computing 34(4), pp.323-340, 2016
K. Sasahara, Y. Hirata, M. Toyoda, M. Kitsuregawa, and K. Aihara, Quantifying Collective Attention from Tweet Stream, PLoS ONE 8(4): e61823, 2013

社会貢献

国立情報学研究所 客員准教授
神戸大学計算社会科学研究センターリサーチフェロー
愛知県立旭丘高校 SSH 運営指導員
PLoS ONE Academic Editor

杉原研究室

Sugihara Laboratory

杉原 太郎 准教授

専門分野 ユーザスタディ、
ヒューマンコンピュータインターラクション
学 位 博士（工学）、京都工芸繊維大学
経 歴 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科、
岡山大学大学院自然科学研究科



ユーザを通して技術のあり方を、技術を通してユーザ行動の原理を考える

情報技術はヒトの可能性を大きく拡げて来ましたが、同時に新たな課題もたらしています。ヒトの行動も情報技術の発展と足並みをそろえるように高度に組織化・複雑化してきており、ヒトと情報技術の間に生じる問題を丁寧に紐解いていくことは、学術的にも実務的にも意義の大きいことと考えています。当研究室は、情報技術のユーザの思考・行動を分析することを通してユーザ行動の原理に迫るとともに、ユーザ行動の分析を通して技術のあり方を探求しています。研究室のような制限された環境ではなく、現場に出て、技術の利用文脈の中での最適解を模索するアプローチを採用しています。複雑で時々刻々と変化する現場の文脈に照らしてユーザの要望を捉え、技術解決可能な課題として整理します。その後、課題を解決するための技術的な、あるいは社会的な解決方法を考案、実装し、現場に適用し、その成果を定量的あるいは定性的に評価します。研究テーマは、この一連の流れ、あるいは流れの一部から、学生と相談しながら決定します。教育研究を通して、ヒトと情報技術の調和について考え、技術と社会とサービスの間に横たわる課題を解決できる人材育成に貢献したいと考えています。

代表著書

Sugihara, T., Kanehira, T., Suzuki, M., Araki, K.: Behavioral signs of an unintended error in nursing information sharing with electronic clinical pathways: a mixed research approach. *Informatics for Health and Social Care*, 1-16, 2021
Leroi I., Watanabe K., Hird N., Sugihara, T.: "Psychogeritechology" in Japan: Exemplars from a super-aged society. *Int J Geriatr Psychiatry*. 2018;1-8. <https://doi.org/10.1002/gps.4906>
Sugihara, T., Fujinami, T., Jones, R., Kadokawa, K. and Ando, M.: Enhancing Care Homes with Assistive Video Technology for Distributed Caregiving. *AI & Society*. Vol. 30 Issue 4, pp 509-518 Springer-Verlag London. DOI 10.1007/s00146-014-0560-9 (2015) (Published online before print Nov. 2014)
Sugihara, T., Fujinami, T., Phaal, R. and Ikawa, Y.: A technology roadmap of assistive technologies for dementia care in Japan. *Dementia*, vol. 14 no. 1 80-103, (2015) (Published online before print June 27, 2013)
杉原太郎、藤波努、高塚亮三：グループホームにおける認知症高齢者の見守りを支援するカメラシステム開発および導入に伴う問題、社会技術研究論文集、Vol. 7, pp. 54-65, 2010

社会貢献

ARG Web インテリジェンスインタラクション研究会副委員長

辻本研究室

Tsujimoto Laboratory

辻本 将晴 教授

専門分野 経営戦略論、経営組織論、
エコシステム戦略論
学 位 博士（政策・メディア）、慶應義塾大学
経 歴 法政大学大学院イノベーションマネジメント
研究科



製品・サービスシステム（エコシステム）の歴史分析、再設計、実装によって現実の社会を変える

エコシステム戦略論を主要なテーマとして研究を行っています。エコシステム戦略論は生物学におけるエコシステムの考え方をアナロジー（類推）として用いて、製品・サービスシステムの動態的変化のメカニズムとパターンをより良く理解しようとする考え方です。経営戦略論の中心的なアプローチは、特定の企業・商取引関係のある企業群を対象にしてその優位性や競争戦略、協調戦略を考えようとするものです。エコシステム戦略論の考え方は、既存の経営戦略的分析の範囲を拡張し、直接的な商取引関係や競争関係のない関係者も含めた俯瞰的な視点からエコシステム（系）の全体的な構造とその動作メカニズム、動作パターンを分析しようとするものです。具体的には、ある製品・サービスシステムの提供に関わるすべての主体の長期間にわたる相互作用を視野に入れて歴史的な調査と分析を行います。その上で、エコシステム全体の構造的把握と、その動態的な変化におけるメカニズム、パターンを探索します。これにより、エコシステムの成長のために意図的に（戦略的に）エコシステムを再設計し、動作をコントロールする可能性を検討します。

代表著書

Tsujimoto, M., Matsumoto, Y., Sakakibara, K. Finding the 'Boundary Mediators' :Network Analysis of the Joint R&D Project between Toyota and Panasonic. *Int. J. Tech Mgt* 66(2/3), 2014.

Tsujimoto, M. The Inertia of Service Definition: A Comparative Analysis of the Felica Ecosystem. *R&D Mgt Conference*, June 23-6, Pisa, Italy, 2015.

Ohara, K., Tsujimoto, M. Network Structure Analysis of APIs and Mashups: Exploring the Digital Ecosystem. *R&D Mgt Conference*, June 23-26, Pisa, Italy, 2015.

Tsujimoto, M., Kajikawa, Y., Tomita, J., Matsumoto, Y. Designing the Coherent Ecosystem: Review of the Ecosystem Concept in Strategic Management. *PICMET*, August 2-6, Portland, USA, 2015.

桙原清則、松本陽一、辻本将晴、『イノベーションの相互浸透モデル：企業は科学といかに関係するか』白桃書房、東京, 2011.

社会貢献

Technological Forecasting and Social Change, Guest Editor

ウシオ電機 ヤングエキゼクティブ研修

株式会社テクノバ 水素ビジネスエコシステム検討会 委員

文部科学省 大学発ベンチャー調査 調査アドバイザリー

文部科学省 イノベーション測定 委員

仙石研究室

Sengoku Laboratory

仙石 慎太郎 教授

専門分野 技術経営学、イノベーション経営論、
バイオ・ヘルスケア産業論
学 位 博士（理学）、東京大学
経 歴 マッキンゼー・アンド・カンパニー、
ファストトラック・イニシアティブ（VC）、
京都大学



技術・イノベーション経営の理論と実践を学際的に共進する

バイオ・ヘルスケア分野を中心に、自然科学・工学と自然科学を横断した、理論構築と実践展開のイノベーションサイクルの実現に向けた研究教育活動を行っています。1. 知的生産活動のマネジメント：研究開発をはじめとする知的生産活動に資する経営管理フレームワークやツールを開発します。2. 学際・融合のマネジメント：学際連携・異分野融合研究開発プログラム・プロジェクトの事例観察を通じ、その効率化と価値最大化に求められる、組織的マネジメント上の要点を明らかにします。3. 産学公連携のマネジメント：日本のアカデミア及び産業界の特性と二つに適合した、産学公連携モデルの開発・実装を行います。4. 統合的イノベーション・マネジメント：サイエンス・リンクエージ研究、産業クラスター研究やビジネスモデル研究に立脚した、技術・イノベーション経営の標準アプローチを開発・提案します。5. 知的プロフェッショナル育成プログラムの開発・体系化：上述の一連の活動を通じて、次世代のイノベーションを担う人材に対して、インテグレーター、技術・スキル、アントレプレナーシップ及びリーダーシップの涵養を図るために教育プラットフォームを開発し、講義を通じて実践します。

代表著書

Miyashita, S., & Sengoku, S. (2021). Scientometrics for management of science: Collaboration and knowledge structures and complexities in an interdisciplinary research project. *Scientometrics*, 126(9), 7419-7444.
Onodera, R., & Sengoku, S. (2018). Innovation process of mHealth: An overview of FDA-approved mobile medical applications. *Int J Med Inform*, 118, 65-71.
Avila-Robinson, A., & Sengoku, S. (2017). Multilevel exploration of the realities of interdisciplinary research centers for the management of knowledge integration. *Technovation*, 62, 22-41.
Lauto, G., & Sengoku, S. (2015). Perceived incentives to transdisciplinarity in a Japanese university research center. *Futures*, 65, 136-149.
Kodama, H., Watatani, K., & Sengoku, S. (2012). Competency-based assessment of academic interdisciplinary research and implication to university management. *Res Eval*, 22(2), 93-104.
Anzai, T., Kusama, R., Kodama, H., & Sengoku, S. (2012). Holistic observation and monitoring of the impact of interdisciplinary academic research projects: An empirical assessment in Japan. *Technovation*, 32(6), 345-357.

社会貢献

内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 地域における人とくらしのワーキンググループ (2015-2017)
日本MOT学会 学会編集委員、研究・イノベーション学会 評議員
京都大学・東京農工大学等 非常勤講師
東京大学 未来ビジョン研究センター ライフスタイルデザイン研究ユニット 客員教授

中丸研究室

Nakamaru Laboratory

中丸 麻由子 准教授

専門分野 社会シミュレーション、人間行動進化学、
数理生物学、進化ゲーム理論
学 位 博士（理学）、九州大学
経 歴 静岡大学工学部、
東京工業大学大学院社会理工学研究科



社会を進化とシミュレーションで切る！

人間や社会の本質とは何か、という問は数千年前からの大きな研究課題です。いまだに明確な答えが出ず、古今東西の研究者が様々なアプローチをとって研究を進めてきました。中丸研究室では、進化生態学的な観点を基にして、数理モデルやシミュレーションという研究ツールを使い、人間社会の本質や社会システムのメカニズムを探ります。人間の本質に迫るために、当研究室では人間社会の基盤である「協力」に着目しています。「協力」する事は当たり前と思うかもしれません。しかし協力への「ただ乗り問題」は至る所で生じています。日常生活や職場においてグループで生活している以上、回避できない問題となっています。そこで中丸研究室では、以下の2点を中心にして研究を進めています。

1. どのような仕組みによってただ乗りを回避することが可能なのかを探る：人々は様々なルールや制度を作って協力を促してきました。古くからある通文化的な慣習や組織に着目して研究をするとともに、現在における組織のあり方も探ります。また、有限と言われている地球上の資源の中でも生態系に着目し、持続可能な生態系利用に関する制度設計にもつなげていきます。

2. 人の協力行動の究極要因を探る：協力行動は進化的な基盤があると言われています。そして人の協力行動の背後には道徳や社会規範の存在があり、それには他の生物には類い希な高度な認知能力、共感能力、言語能力等が関係していると言われています。それらが進化した要因を探るとともに、1の研究に生かしていきます。人間に特有と言われている能力の進化基盤を探ることは、人間だから可能であるイノベーションの創発・普及に関する基礎的な研究にもつながります。

代表著書

中丸麻由子,『社会の仕組みを信用から理解する：協力進化の数理』,共立出版, 東京, 2020.
Nakamaru, M., Shimura, H., Kitakaji, Y. and Ohnuma, S. (2018) The effect of sanctions on the evolution of cooperation in linear division of labor. *Journal of theoretical biology* 437, 79-91.

Nakamaru, M., Yokoyama, A. The effect of ostracism and optional participation on the evolution of cooperation in the voluntary public goods game. *PLoS ONE* 9(9), e108423, 2014.

中丸麻由子,『シリーズ社会システム学 第4巻 進化するシステム』,ミネルヴァ書房, 京都, 2011.

社会貢献

日本学術会議連携会員（第24-25期）
人間行動進化学会 理事
日本数理生物学会 運営委員

日高研究室

Hidaka Laboratory

日高一義 教授

専門分野 サービスサイエンス、サービスデザイン、プロダクト・サービス・システム、エネルギー需要科学
学位 博士（理学）、早稲田大学
経歴 日本IBM、IBMワトソンリサーチセンター、北陸先端科学技術大学院大学



サービスサイエンスとサービスイノベーションによる次世代の成長

代表著書

Y. Shimoda, Y. Yamaguchi, Y. Iwafune, K. Hidaka, A. Meier, et al., "Energy demand science for a decarbonized society in the context of the residential sector", Renewable and Sustainable Energy Reviews, Vol. 132, Oct. 2020.
川本, 錦織, 日高 電力消費量に関する比較情報が電力消費行動と再生可能エネルギーの利用意識へ与える影響, 電気学会論文誌 C, Vol.140, No.5, 2020
Amaha S., Nishikiori S., Hidaka K., Why do customers switch the contract to a local or renewable electricity supplier?, Proc. of ECEEE Summer Study, 5-265-19, pp.917-927, June 7th 2019.
Hidaka, K. Services Science, Management, and Engineering (SSME) in Japan, Handbook of Service Science, Springer, pp.707-15, 2010.
Hidaka, K. Trends in Services Sciences in Japan and Abroad, Science & Technology Trends Quarterly Review, NISTEP, No. 19, pp.35-47, 2006.
Hidaka, K., Okano, O. An Approximation Algorithm for a Large-Scale Facility Location Problem, Algorithmica 35, 216-24, 2003.

社会貢献

科学技術振興機構・RISTEX 問題解決型サービス科学研究 P. A.
文部科学省 サービス・イノベーション人材育成推進委員会 委員
情報処理学会フェロー
サービス学会会長（第4期）

▶ 中国と日本のビジネスをつなぐ架け橋に



王琳琦さん
アクセンチュア株式会社
製造流通本部 マネジメントコンサルタント
2005年 東京工業大学 第5類 入学
2009年 東京工業大学 工学部情報工学科 卒業
2011年 東京工業大学 大学院
イノベーションマネジメント研究科
技術経営専攻 修士課程修了

元々理系出身だったので、社会科学系の授業についていけるか心配でしたが、進学前のイメージとは違ってやり遂げることができました。研究科に進学して一番よかったと思うのは、学友に恵まれたことで、フルタイムの学生は皆、自分と感覚が近い人が多く、とても意気投合しました。就職活動も授業もいろいろな面で相談しあうことができました。社会人の皆さんからは、たくさんの助言をいただくことができました。講究（ゼミ）では、文献の輪読もあり、いろいろ自分で調べてやることがよかったです。研究テーマにも縛りがなく自由にやってよく、ゼミの中での発言も自由にできたので、自分にとってはやりやすい環境でした。合宿も年に1回は行って、研究発表や議論などとても楽しかったです。

▶ 科学的手法と情熱で、共感を生む戦略



児玉洋一さん
三井化学株式会社 経営企画部
1999年 三井化学株式会社（現在まで）
2008年 東京工業大学 大学院
イノベーションマネジメント研究科イノベーション専攻
博士後期課程入学
2012年 東京工業大学 大学院
イノベーションマネジメント研究科イノベーション専攻
博士後期課程修了 博士（技術経営）学位取得

東工大は「卓越した専門性」と「リーダーシップ」を併せ持つ人材育成方針に共鳴した理工系人材が集まる学びの場だと言えます。また、私が所属していた大学院イノベーションマネジメント研究科は、社会人学生が多く、日中の仕事に関する意見交換はもとより、実際の仕事上的人的ネットワークも作れる実践的な場でもありました。科学哲学・社会科学・経営学に関するゼミを通じて理解した科

BMOT

Beyond Management of Technology
イノベーション科学系 / コース
技術経営専門職学位課程同窓会

- ① 会員の親睦を深める活動
- ② 当系/コース・課程への支援活動
- ③ 会員の消息把握および維持管理活動



所属教員

周絹	助教 環境・社会理工学院
宮下 修人	助教 環境・社会理工学院
岩野 和生	特任教授
武内 瑞智	特任教授
中村 昌允	特任教授
古俣 升雄	特任准教授
Mejia Caballero Cristian Andres	特任助教 東京工業大学 環境・社会理工学院
八尋 俊英	特定教授
西尾 泰和	特定准教授

修了生の就職先 (H27.3-R3.3 修了、五十音順)

アクセンチュア、NTTドコモ、M-ITソリューションズ、科学技術振興機構、経済産業省、コカ・コーラライーストジャパン、国際石油開発帝石、サイバーエージェント、産業技術総合研究所 特別研究员、全国銀行協会、シンプレクス株式会社、ソニー、第一生命保険、大連理工大学、大和証券、大和証券グループ、武田薬品工業、DMG森精機、東京都、東京海上日動あんしん生命、東京海上日動火災保険、東京交通短期大学、日本アイ・ビー・エム、日本工営、野村アセットマネジメント、野村證券、パシフィックコンサルタント、PwCあらた有限責任監査法人、ビズリーチ、富士ゼロックス、プライスウォーターハウスクーパース、PwC Japan、本田技研工業、マクラガンパートナーズアジアインコーポレーテッド、McKinsey & Company、みずほ銀行、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、明治安田生命、ヤフー、リクルートホールディングス、ルネサスエレクトロニクス、レイズグループ、ローランド・ベルガー、ワークスアリケーション、Y's & partners、東北テクノアーチ、大和証券グループ、科学技術振興機構、東京都、DMG森精機、シンプレクス株式会社、レイズグループ、ダイキン工業、日立製作所、TRWオートモーティブジャパン、任天堂、日本タタ・コンサルタンシーズ、KDDI総合研究所、富士通、大成建設、SCSK、Avery denison Japan

在学生の海外留学実績

アールト大学（フィンランド）
ジョージア工科大学（米国）
シンガポール国立大学（シンガポール）
スイス連邦工科大学（スイス）
チャルマース工科大学（スウェーデン）
ハンブルク工科大学（ドイツ）
EMリヨン経営大学院（フランス）



キャリアアップ MOT プログラム (CUMOT)
働きながら MOT を学び、キャリアに活かす

キャリアアップ MOT とは

社会人アカデミーのプログラムとして、環境・社会理工学院 技術経営専門職学位課程が実施する MOT（技術経営）に関するセーティフィケート・プログラムで、修了者には修了証書が授与されます。平日夜、週1回の通学など、社会人の方が働きながら MOT の学びを通じて、キャリア形成を図ることを支援する取り組みです。多様な業界・業種から、経営者、マネージャー、若手などが参加され、これまで14年間で1,500名以上の社会人の方が受講しています。受講場所は通学の場合、田町キャンパス（JR田町駅徒歩2分）です。コースによってZoomでのオンライン講義形式により全国からの受講も可能です。



プログラムの位置づけ

CUMOTで提供するプログラム／コースは、本学の MOT 教育ノウハウ、現場・実践を意識したカリキュラム（シミュレーションやケース教材の利活用）、少人数制による質の高い講義と相互学習をもとに、次世代の企業経営を担う中核人材のキャリアアップを支援します。

キャリアアップ MOT 担当教員

古俣 升雄 特任准教授

専門分野 キャリアデザイン、リカレント教育
学位 経営学修士（キャリアデザイン学）法政大学

コースの紹介

MOTを1年間で学ぶエッセンシャルMOTコース(11科目、全36回)など多様なコースを提供しています。1回2時間または1日単位の構成で、受講期間は1か月から1年となっています。コースの詳細はWebサイトでご確認ください。

<https://www.academy.titech.ac.jp/cumot/course.html>

お問い合わせ

- メールアドレス:cumot-info@mot.titech.ac.jp
- 詳細・最新情報は、専用Webサイトをご参照ください。
<http://www.academy.titech.ac.jp/cumot/>

お問い合わせ

東京工業大学 環境・社会理工学院
イノベーション科学系 イノベーション科学コース
技術経営専門職学位課程

所在地 〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6

キャンパス・イノベーションセンター

電話 03-3454-8912

E-mail inv-jim@mot.titech.ac.jp

2022年3月発行